

科目名 (英)	はりきゅう実技Ⅱ Practice of Acupuncture and Moxibustion II	必修 選択	必修	年次	2年次	担当教員	
学科・コース	鍼灸科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	90 2	開講区分	後期
						曜日・時限	

【授業の学習内容】

はりきゅう実技Ⅱでは臨床の場で遭遇しやすい疾患(運動器系)の治療を中心として、現代医学的・東洋医学的治療法を修得する。また東洋医学で用いる四診や弁証論治のトレーニングを行い、東洋医学的な治療に必要な病態把握と治療方法を修得する。

【到達目標】

はり師・きゅう師として運動器系疾患に対する現代医学的・東洋医学的治療を身に付ける。

<具体的な目標>

目標①筋の付着部位や走行部位を意識したうえで正確にとらえ、安全かつ確実に狙った部位へ刺入することができる。

目標②経筋治療を用いた運動器系の治療ができるようになる。

目標③四診(舌診・脈診・腹診)を用いて、東洋医学的所見をとることができる。

目標④弁証論治をもとに穴性を理解して、選穴・配穴・手技を行うことができる。

授業計画・内容

1回目	骨格指標を用いた姿勢のチェックや動作確認のデモンストレーションを行う。
2回目	骨格指標を用いた姿勢のチェックと動作確認を行う。評価の活かし方を学び、実践する。
3回目	頸部の評価(動的・静的チェック)を行う。頸部の解剖を確認し、触診を行う。
4回目	頸部の解剖と経穴の小テスト・頸部の刺鍼のデモンストレーションを行う。
5回目	頸部の刺鍼練習をペアで行う。
6回目	頸部の刺鍼練習と手技練習をペアで行う。
7回目	肩関節の評価(動的・静的チェック)を行う。肩背部の解剖を確認し、触診を行う。
8回目	肩背部の解剖と経穴の小テスト・肩背部の刺鍼のデモンストレーションを行う。
9回目	肩背部の刺鍼練習をペアで行う。
10回目	肩背部の刺鍼練習と手技練習をペアで行う。
11回目	腰部の評価(動的・静的チェック)を行う。腰部の解剖を確認し、触診を行う。
12回目	腰部の解剖と経穴の小テスト・腰部の刺鍼のデモンストレーションを行う。
13回目	腰部の刺鍼練習をペアで行う。
14回目	腰部の刺鍼練習と手技練習をペアで行う。
15回目	頸部・肩背部・腰部の触診・刺鍼の復習をペアで行う。
準備学習 時間外学 習	頸部、肩背部、腰部に分けて解剖と経穴の部位を確認する小テストを実施するため、小テストの勉強をしておいてください。触診は実技の時間以外の時間を使って練習できますので、上達のため時間外での練習も積極的に行ってください。
評価方法	成績の評価は、各科目の『試験』の点数で100点満点とする。 『試験』には科目試験や中間試験、小テスト等の臨時試験などが含まれる。
受講生へ のメッセ ージ	「はりきゅう実技Ⅱ」では主にどの分野にでも共通する治療の基礎を固めていきます。この実技Ⅱで得た「知識」と「技術」が、皆さんが将来働くうえでの基盤になります。この実技Ⅱが自分の「鍼灸師としての基盤を作る重要な時間」だということを意識して実技に臨んでください。鍼灸師として安全で安心できる治療が提供できるのはもちろんのこと、すぐに効果を実感できる治療ができることも大切です。実技の時間を有意義に使うためにも予習や復習を行い、解剖や経穴の場所をしっかりと確認できるようにしておいてください。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書:新版 東洋医学概論 教科書執筆小委員会 著 医道の日本社

教科書:新版 経絡経穴概論第2版 教科書執筆小委員会 著 医道の日本社

参考書:鍼灸療法技術ガイドⅡ 文光堂

科目名 (英)	はりきゅう実技Ⅱ Practice of Acupuncture and Moxibustion Ⅱ	必修 選択	必修	年次	2年次	担当教員	
学科・コース	鍼灸科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	90 2	開講区分	後期
						曜日・時限	

【授業の学習内容】

はりきゅう実技Ⅱでは臨床の場で遭遇しやすい疾患(運動器系)の治療を中心として、現代医学的・東洋医学的治療法を修得する。また東洋医学で用いる四診や弁証論治のトレーニングを行い、東洋医学的な治療に必要な病態把握と治療方法を修得する。

【到達目標】

はり師・きゅう師として運動器系疾患に対する現代医学的・東洋医学的治療を身に付ける。

<具体的な目標>

目標①筋の付着部位や走行部位を意識したうえで正確にとらえ、安全かつ確実に狙った部位へ刺入することができる。

目標②経筋治療を用いた運動器系の治療ができるようになる。

目標③四診(舌診・脈診・腹診)を用いて、東洋医学的所見をとることができる。

目標④弁証論治をもとに穴性を理解して、選穴・配穴・手技を行うことができる。

授業計画・内容

16回目	脈診の種類と脈のとり方を学び、ペアで実習。
17回目	脈診をペアで行い、所見を確認する。
18回目	舌診の種類と舌の診方を学び、ペアで実習。
19回目	舌診をペアで行い、所見を確認する。
20回目	腹診の種類と腹証の診方を学び、ペアで実習。
21回目	腹診をペアで行い、所見を確認する。
22回目	背候診の診方を学び、ペアで練習。
23回目	背候診をペアで行い、所見を確認する。
24回目	経筋治療を用いた運動器疾患の治療の流れを確認し、練習する。
25回目	経筋治療を応用した頸肩部の治療を練習する。
26回目	経筋治療を応用した腰背部の治療を練習する。
27回目	弁証論治の立て方を学び、トレーニングする。
28回目	弁証論治の立て方を学び、トレーニングする。
29回目	穴性を活かす手技1: 切経の基本と実践(十二経脈の切経と刺鍼を行う)
30回目	穴性を活かす手技1: 切経の基本と実践(十二経脈の切経と刺鍼を行う)
準備学習 時間外学習	四診・経筋治療・特定穴(五輸穴・五要穴)の小テストの勉強をしておいてください。 四診は実技の時間以外の時間を使って練習できますので、上達のため時間外での練習も積極的に行ってください。
評価方法	成績の評価は、各科目の『試験』の点数で100点満点とする。 『試験』には科目試験や中間試験、小テスト等の臨時試験などが含まれる。
受講生への メッセージ	「はりきゅう実技Ⅱ」では主にどの分野にでも共通する治療の基礎を固めていきます。この実技Ⅱで得た「知識」と「技術」が、皆さんが将来働くうえでの基盤になります。この実技Ⅱが自分の「鍼灸師としての基盤を作る重要な時間」だということを意識して実技に臨んでください。 鍼灸師として安全で安心できる治療が提供できるのはもちろんのこと、すぐに効果を実感できる治療ができることも大切です。実技の時間を有意義に使うためにも予習や復習を行い、四診法とそれぞれの所見と関連する病証をしっかり確認しておいてください。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書: 新版 東洋医学概論 教科書執筆小委員会 著 医道の日本社
教科書: 新版 経絡経穴概論第2版 教科書執筆小委員会 著 医道の日本社
参考書: 鍼灸療法技術ガイドⅡ 文光堂

科目名 (英)	はりきゅう実技Ⅱ Practice of Acupuncture and Moxibustion II	必修 選択	必修	年次	2年次	担当教員	
学科・コース	鍼灸科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	90 2	開講区分	後期
						曜日・時限	

【授業の学習内容】

はりきゅう実技Ⅱでは臨床の場で遭遇しやすい疾患(運動器系)の治療を中心として、現代医学的・東洋医学的治療法を修得する。また東洋医学で用いる四診や弁証論治のトレーニングを行い、東洋医学的な治療に必要な病態把握と治療方法を修得する。

【到達目標】

はり師・きゅう師として運動器系疾患に対する現代医学的・東洋医学的治療を身に付ける。

<具体的な目標>

目標①筋の付着部位や走行部位を意識したうえで正確にとらえ、安全かつ確実に狙った部位へ刺入することができる。

目標②経筋治療を用いた運動器系の治療ができるようになる。

目標③四診(舌診・脈診・腹診)を用いて、東洋医学的所見をとることができる。

目標④弁証論治をもとに穴性を理解して、選穴・配穴・手技を行うことができる。

授業計画・内容

31回目	穴性を活かす手技3: 揣穴法、催気法、候鍼行気法、守気法をペアで練習する。
32回目	穴性を活かす手技3: 揣穴法、催気法、候鍼行気法、守気法をペアで練習する。
33回目	頸部痛(症例)に対する病態把握のディスカッションを行い、ペアで治療を行う。
34回目	頸部痛(症例)に対する病態把握のディスカッションを行い、ペアで治療を行う。
35回目	肩背部(症例)に対する病態把握のディスカッションを行い、ペアで治療を行う。
36回目	肩背部(症例)に対する病態把握のディスカッションを行い、ペアで治療を行う。
37回目	腰部(症例)に対する病態把握のディスカッションを行い、ペアで治療を行う。
38回目	腰部(症例)に対する病態把握のディスカッションを行い、ペアで治療を行う。
39回目	頸部痛(症例)に対する病態把握のディスカッションを行い、ペアで治療を行う。
40回目	頸部痛(症例)に対する病態把握のディスカッションを行い、ペアで治療を行う。
41回目	肩背部(症例)に対する病態把握のディスカッションを行い、ペアで治療を行う。
42回目	肩背部(症例)に対する病態把握のディスカッションを行い、ペアで治療を行う。
43回目	腰部(症例)に対する病態把握のディスカッションを行い、ペアで治療を行う。
44回目	腰部(症例)に対する病態把握のディスカッションを行い、ペアで治療を行う。
45回目	実技全体の振り返りと反省を行う。
準備学習 時間外学 習	症例を通して、これまで学んだ現代医学的・東洋医学的な病態把握、治療法を組み合わせるトレーニングをしていきます。宿題や小テストがありますので、事前学習や復習として行ってください。
評価方法	成績の評価は、各科目の『試験』の点数で100点満点とする。 『試験』には科目試験や中間試験、小テスト等の臨時試験などが含まれる。
受講生へ のメッセ ージ	「はりきゅう実技Ⅱ」では主にどの分野にでも共通する治療の基礎を固めていきます。この実技Ⅱで得た「知識」と「技術」が、皆さんが将来働くうえでの基盤になります。この実技Ⅱが自分の「鍼灸師としての基盤を作る重要な時間」だということを意識して実技に臨んでください。鍼灸師として安全で安心できる治療が提供できるのはもちろんのこと、すぐに効果を実感できる治療ができることも大切です。実技の時間を有意義に使うためにも予習や復習を行い、解剖や経穴の場所をしっかりと確認できるようにしておいてください。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書: 新版 東洋医学概論 教科書執筆小委員会 著 医道の日本社
教科書: 新版 経絡経穴概論第2版 教科書執筆小委員会 著 医道の日本社
参考書: 鍼灸療法技術ガイドⅡ 文光堂